

平成27年度 大同大学卒業研究
愛知ブランド企業(株式会社三浦太鼓店様)広報企画

三浦太鼓店 × 名古屋市野外教育センター
豊田市稲武支所

未来に残す植林活動

上岡研究室
D12067 水野修秀

広報目的

日本の文化 太鼓を後世に残していく事。

日本の文化である太鼓だが、

森林伐採の影響で太鼓作りに最も適していると言われる「欅」(けやき)が年々数を減らし、現在は良品質な欅を入手することが難しくなっており、合成樹脂製の太鼓が数を増やしてきている。

〈目的〉

欅の減少を阻止し、地球環境を保護、保持していく事で日本古来の太鼓を後世に残していくことが可能なサステイナブル(持続可能)な太鼓文化をつくる。



サステイナブルな社会作り 活動例



日本サステイナブルコーヒー協会

日本サステイナブルコーヒー協会は、サステイナブルコーヒー（持続可能性に配慮したコーヒー）の普及およびコーヒーを通じたサステナビリティへの貢献を目指して活動している非営利団体です。現在、環境保護団体などのNGOが、サステイナブルコーヒーの生産や流通を推進する活動をおこなっておりコーヒー生産者/流通業者をチェックし、改善が必要な点に対してはアドバイスや技術支援をおこない、基準をクリアしたら認証している。現在のことだけでなく未来の事も考えた上で、自然環境や人々の生活を良い状態に保つ事を目指している。

<活動内容>

生産地域の自然環境の保護や再生、減農薬/無農薬栽培の推進、生産者の収入の安定化、トランスパレンシー（透明性）の確保、農園労働者の人権保護や生活環境の改善、トレーサビリティ（生産履歴）の確保など



サステナブル・シーフード・ウィーク実行委員会
(WWFジャパン×MSC日本事務所)

WWFジャパン（約100カ国で活動している環境保全団体）
MSC日本事務所（水産資源の回復を目指す国際的非営利団体）
が共同で主催する。
水産資源の枯渇が世界的に懸念されており、FAO（食糧生産と分配の改善と生活向上を目指す国際連合の専門機関）によれば、世界の海で行われている漁業の、すでにおよそ3割の資源が“もはや獲り過ぎ”な状態にあり、またおよそ6割が限界まで漁獲されている状態とされています。
水産物の枯渇を加速させるだけではなく、海の生態系のバランスをまもり海の恵みを受け生活する人間の社会に大きな影響をもたらさないよう、「サステナブル・シーフード」という考え方を広めていくことを目的としています。

<活動内容>

二種類の認証制度を実施しており、MSC認証制度は、持続可能な漁業を認証、ASC（水産養殖管理協議会）認証制度は、環境と社会への負荷を最小限にする養殖業を認証。
認証を受けた水産物にはMSCラベル、ASCラベルを付けて販売することができます。消費者が一目みて「サステナブル・シーフード」を選ぶことができます。



資料：欒（けやき）

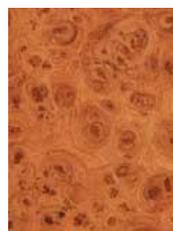
- ・北海道を除く日本各地に分布し、日本を代表する落葉広葉樹景観樹木として公園内に植栽されているほか、排気ガスにも強いため街路樹としても重宝されています。
- ・強靱で狂いが少なく耐朽性にも優れているという実用性の高い特徴を持ち、外見的にも木目が力強く美しい事から古来より日本国内で最良の広葉樹として扱われてきました。
- ・春の芽吹き、夏の緑陰、秋の紅葉、冬の木立と四季を楽しめます。
- ・主に建築材、家具材など。特にお寺の建築にはケヤキが欠かせないものとなっています。
- ・ケヤキのその他の用途としてはお盆、お椀などの漆器があげられ、これらの加工品の材料としては現在でも非常に価値が高いとされています。
- ・一年に1m、最大20～40m程に成長する。太鼓用に使える欒は樹齢100年～150年
- ・大経になった欒にはこぶがあったりするため中の繊維の形が不規則になり様々な形の杓が現れる。ケヤキには如輪杓という特別な杓が出る事もあり、これは杓の中でも最高級の杓とされています。如輪杓の他にも玉杓、葡萄杓、牡丹杓、泡杓、笹杓などといった特殊な杓が出る事があります。



じょりんもく
如輪杓



たまもく
玉杓



ぶどうもく
葡萄杓



ぼたんもく
牡丹杓



あわもく
泡杓



ささもく
笹杓

資料：櫨の現状

太鼓の胴に使われる材料となるのが、櫨、楠、杉などの天然木です。中でも櫨は音響、耐久性、堅牢性、粘性、美観など太鼓に求められる要素を満たし、太鼓製造にはもっとも適した木材として使われている。また、櫨は種類が同じでも美しい様々な種類の木目があり、この木目のことを「杳」と言う。そして、材質も優秀であり太鼓を始め様々なことに使われるので森林伐採が進み全国的に櫨の数が減少している。



平成	落葉広葉樹 (本)
14年	33,828
15年	26,008
16年	29,656
17年	24,902
18年	22,012
19年	18,101
20年	15,726
21年	14,021

左図は平成14年から21年までの「樹種別生産本数 落葉広葉樹」をまとめたものである。櫨は落葉広葉樹に属しており、平成14年から21年の8年間で約半数以下に数を減らしているのが読み取れる。

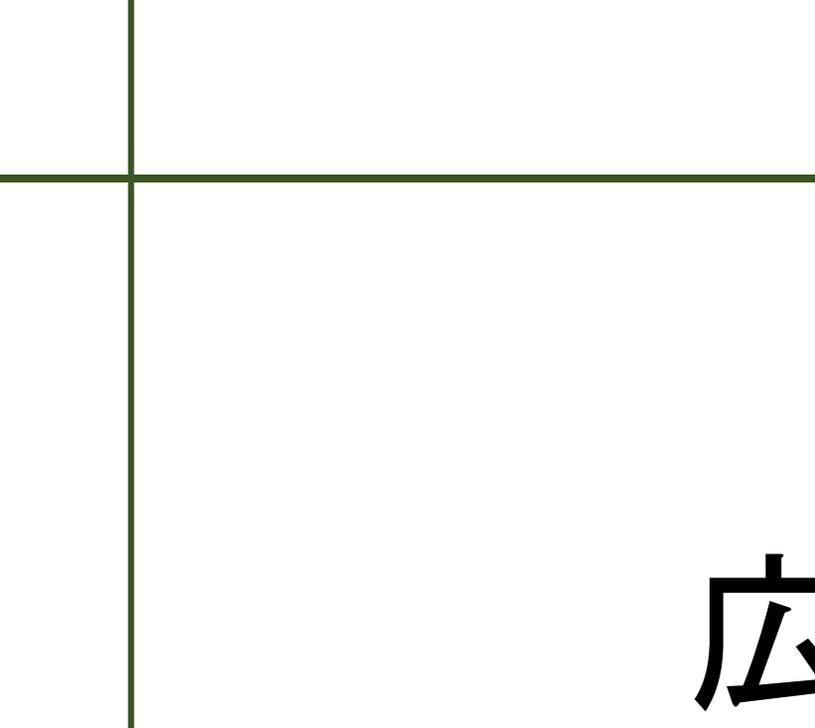
引用（農林水産省 緑化樹木の生産状況調査報告書）

問題点

様々な用途に対応した、樹齢を重ねた櫨の大木の多くが伐採され太鼓作りに適用した櫨の入手は年々困難となってきた。

解決策

後世でも櫨を使った最高級の太鼓を作るため櫨の減少を阻止し、数を保持する必要がある、日本古来の太鼓を後世にも持続して残していくことが可能なよう櫨の植林活動を行う。



広報アイデア

広報アイデア

未来に残す植林活動

名古屋市野外教育センター × 三浦太鼓店 豊田市稲武支所

〈コンセプト〉

三浦太鼓店様を取り扱っている太鼓は日本の文化の一つである。
だが、様々な面で太鼓を作るのに適したといわれている「榿」が数を減らしてきている。
本施策では、三浦太鼓店様が愛知県内で中学生と共に植林活動を行っている
名古屋市野外教育センター・豊田市稲武支所と協力し、
名古屋市稲武野外教育センターを利用する中学生と共に榿の植林活動を行い
名古屋市の中学生が太鼓や自然に触れ、関心を高めると共に日本古来の太鼓を
後世でも制作していけるように太鼓の文化を守っていくことを目的としている。

資料：稲武野外学習 & 植林

「稲武野外学習」

愛知県豊田市稲武町に在る名古屋市稲武野外教育センターで愛知県の中学二年生を対象に自然とふれあい、仲間と協力する大切さ、自主自律を身につけさせることにより、豊かな人間性をはぐくむことを目的とした2泊3日の野外活動

「植樹体験事業(ふれあい交流植樹)」

稲武に来てくれた中学生が山の作業を通じて山の大切さを認識し学生が地元住民の指導の下、一人一本の広葉樹を植樹し地元住民とのふれあいを通して稲武への愛着をより深めてもらうと共に交流による地元住民の生きがい作りと地域活性化を図る事を目的とした植林活動を行っており、一年に一度、5回目の開催となる2015年度では名古屋市立川名中学校の学生22名が稲武町の地元住民と共に植林活動を行った。



稲武町横川渡地内の山林

「植林時期」

櫟の植林時期は梅雨時(6月上旬から7月中旬)がよく。植物の活動が旺盛なことで空気中及び土中の水分が豊富なため、植物の疲れも少なく、また、回復が早いので梅雨が適している。

「櫟の苗木入手法」

櫟の苗木入手法を検討した所、以下の理由から愛知農園植木苗木株式会社様から櫟の苗木を購入します。

- ・苗木1本から販売しており植木の植え込みから庭づくりまで愛知県稲沢市・名古屋市・一宮市・春日井市・豊田市・岡崎市中心に地域密着型である。
- ・日本4大植木産地の1つ、稲沢市で植木・苗木を生産している。
- ・櫟の苗木は高さ5m程が100本以上在庫で存在する
- ・数多くの法人向けに植木の販売を行っており西は九州、東は東北まで配送した実績がある。
- ・法人向けに緑地管理を一年ごとに行うプランがあり、年間を通じて緑地の定期管理を行う植林後の櫟の手入れを頼むことができる。

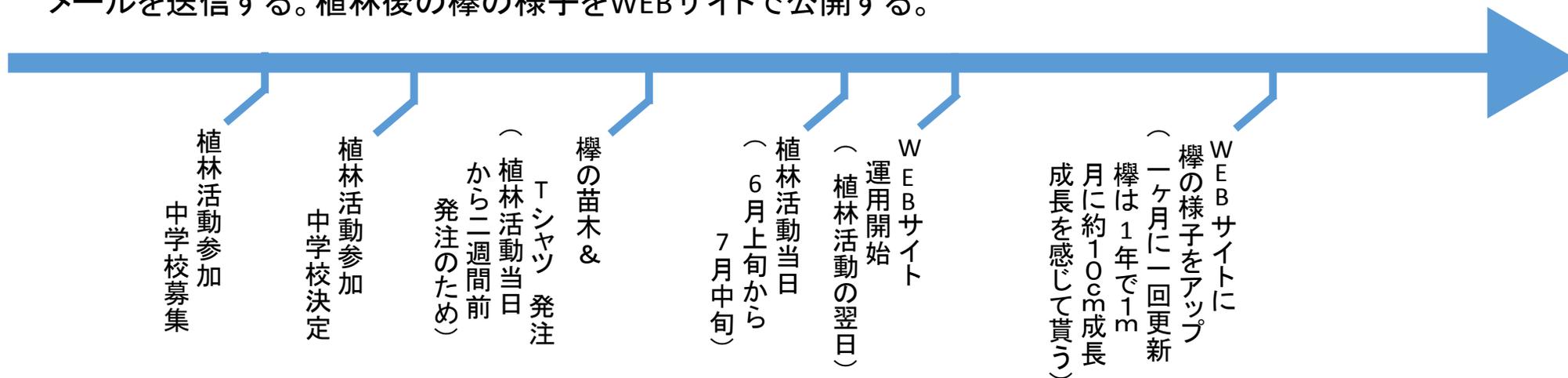


〒492-8348 愛知県稲沢市馬場1-96番地
TEL: 一般のお客様・法人様 0587(81)7280
TEL: 業者様 0587(36)0413
FAX: 0587(36)2977

『未来に残す植林活動』活動概要

三浦太鼓店 × 名古屋市野外教育センター 豊田市稲武支所

太鼓文化を後世に残していく為、日々減少を辿る太鼓の材料である榿を育てていくことが目的。榿の植林時期である梅雨時(6月上旬から7月中旬)に稲武町横川渡地内の山林に榿を中学生と共に植林する。(一日間 所要時間 1時間30分)
植林地の広さを考慮して、榿の苗木を50本植林する。愛知県の中学二年生の平均人数は1校当たり168名(引用 愛知県 学校基本調査結果)なので3人で一つの苗木を植えて貰う。植林する榿の数、学生数から「未来に残す植林活動」に参加して頂く中学校は1校
梅雨時に名古屋市稲武野外教育センターを利用する中学校に植林活動内容・参加申し込みのメールを送信する。植林後の榿の様子をWEBサイトで公開する。



『未来に残す植林活動』 アイテム



ロゴマーク

デザインコンセプト

- ・中央の丸は太鼓を前方の苗木を持つ手は植林活動を行う人の手をイメージ
- ・日本古来の文化である太鼓を表現するため、水墨画調に制作
- ・人の手で植林を行い、太鼓の未来を守っていき日本の文化を繋いでいきたいという思いを込めました

前



後



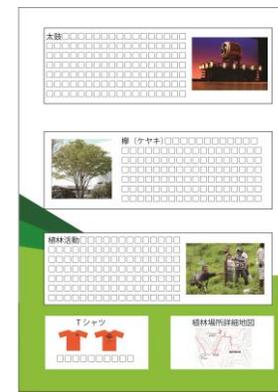
植林活動用Tシャツ

- ・植林活動参加者に配布
- ・太鼓文化を残していきたいと思う熱い気持ちオレンジを使って表現
- ・オレンジ色は少し暗めの色なので土や泥の汚れが目立ちにくい

表



裏



中学生配布用プリント

記載項目

- 表: タイトル: 未来に残す植林活動
 場所 日時 イベント内容
 名古屋市稲武野外教育センター情報
 三浦太鼓店情報
- 裏: 太鼓の紹介 櫨の現状 植林風景
 植林場所詳細地図 Tシャツ

『未来に残す植林活動』活動広報

三浦太鼓店様のWEBサイト上に「未来に残す植林活動」のバナーを置き、植林活動内容を公開する。

植林をした後の櫟の様子を三浦太鼓店WEBサイト上で公開する利点

- ・WEBサイトを観覧して頂いた方々に植林活動を行っていることを知ってもらうため
- ・櫟を植えるだけで終わりではなく、その後もしっかりと櫟の成長を見守っていることを伝え三浦太鼓店様の信頼性を向上させるため
- ・チラシやポスターよりも多くの情報を伝えることが出来、見てもらえる数が多いため

①三浦太鼓店WEBサイト上に
バナーを設置



②バナーをクリックすると
「未来に残す植林活動」のページに移動



③植林活動の内容、植林風景、
現在の櫟の様子をアップ



広報研究活動を通じて

1年間を通して実際の企業の広報活動に関わったことで
ビジネスマナー、企業との関わり方、動画企画の発案、
実際の撮影現場など今までにはない貴重な経験が出来ました。

また、企画書に使う言葉や画像一つで相手に伝わる
印象が違ってくるので相手がどう思うのか、第三者の目を
意識することが大切だとわかりました。

PR動画作成時も企画、撮影、編集を私だけでは
難しかったですが、周りの方々にご指導・ご協力していただき
制作することが出来ました。

この1年間の活動は社会人になった私に必ず役に立つと思います。